

中学生の「税についての作文」

福岡国税局管内納税貯蓄組合連合会 会長賞

税による当たり前

大木町立大木中学校

三年 宮 原 侑 巳

「こんにちは。」

私は、受付の方に挨拶をする。そして、いつものように診察を受ける。診察後、薬局に持っていく紙を受け取って薬をもらいにいく。これが、私の病院での流れだ。受付のときも診察後も、薬局でも、私が料金を支払うことはない。私は、そのことを不思議に思うことはなかった。当たり前のように思っていた。しかし、ある時から、私は税について考えるようになった。

ある日、私は兄と病院に行った。いつものように診察を受け、薬の用紙を受付にもらいに行く。私は、料金を支払わなくていいと分かっていたため、そのまま帰ろうとした。しかし、兄は違った。高校生だった兄は受診料を支払い、薬局でも支払っていたのだ。診察の内容も、薬の種類も同じだったはずだ。しかし、料金を支払うのは兄だけだったのだ。なぜ、私は料金が不要なのだろうか。私は不思議に思った。そこで、母に訊くことにしたのだ。すると、母は、答えた。

「中学生以下は無料なんだよ。町の税金から支払われているから。」

私は、初めて知った。今まで当たり前のように無料で受診していたが、それができるのは町の方々の税金のおかげだったのだ。このことがきっかけで、私は税について興味を持つようになった。そんなとき、あるビデオを見た。

道路は整備されておらず、橋はくずれたまま。火事が起きても、救急車どころか消防車も気軽には呼べない。小学校では、教科書を自分で買わなければいけない。これは、税金がない日本の様子を表したビデオであった。私は、驚愕した。私自身、あまり税に対して良いイメージがなかった。税がどのように使われているのかも知らなかったため、買い物するのに高いお金を払わなければいけない、なんてことを考えていたくらいだ。税はない方が幸せなのではないかとも思っていた。しかし、税がない社会には笑顔がなかった。今まで当たり前のように思っていたことが当たり前ではなかった。税がない社会は、決して幸せなものではなかったのだ。私は、税があることの大切さを知った。

私は、アレルギーの薬を五年間、毎日飲んでいた。だから今、薬に過ごすことができている。しかし、それは、税がなければ叶うことはなかっただろう。学校でも、当然のように教科書が配布される。道路はいつも整備されていて、火事があれば、すぐに消防車が来てくれる。そんな当たり前が当たり前にある社会を私達は守っていかなければいけない。私が税のおかげで助かったように、今度は、私が誰かを支えていきたい。だから、これから、社会人になっても納税をしていこうと思う。当たり前が当たり前にある社会のために。